

子育てのおはなし

臨床心理士
後藤かをり

第37話

巣ごもり —新しい視点を

コロナ、コロナで過ぎていった3~5月、子どもたちも、親御さんたちも、きっと落ち着かない、我慢をすることが多い日々だったと思います。
「遊びをせんとや生まれけむ、戯れせんとや生まれけむ」と謡われた子どもたち、遊びの大きい意味である「思うままに」や「誰かとともに」、「自然の中で」などが制限された生活は、ストレスいっぱいだっただろうと思います。
それに付き合う大人も、ストレスを何とかしてやりたいけれど思うようにできなくて、つらい思いをされたことと思います。遊びも、勉強も、もともとは自分でするものではありませんが、自由に、ということが大事な条件です。巣ごもりの時期、

大人に縛られず、自分の好きなことに没頭できた子は、すごく力になったことと思います。振り返ってみると多かれ少なかれ、大人の価値観からしたらあまり望ましくはないことであったかもしれませんが、子どもが自分から瞳を輝かせて、一生懸命になることがあったのではないのでしょうか？それを、大人の側も喜びとしてやれたら、子どもの力は飛躍的に伸びるに違いありません。
これからも、先の見えない時があることと思います。大人の側が広い視野を持って、これまでの価値観に縛られず、子どもと自分の気持ちを大切に感じながら、新しい生き方を作っていきたいと思っています。

募集とお知らせ

8月~10月の 移動児童館・ゆめたま号

児童総合センターのあそびを「ゆめたま号」に乗せて児童館へ運び、現地のスタッフも加わって地域の子どもと大人と一緒に遊ぶプログラムです。あそびをとおして、たくさんのお会いを楽しみにしています。

実施機関：

- 8/8(土) 東浦町 石浜西児童館
- 8/18(火) 大口町 大口南児童センター
- 9/5(土) 半田市 成岩児童センター
- 9/16(水) 刈谷市 なのはな児童館
- 9/25(金) 碧南市 かしの木保育園子育て支援センター
- 10/8(木) 豊明市 大宮児童館
- 10/16(金) 安城市 安祥児童センター
- 10/30(金) 津島市 西地区子育て支援センター

※詳細については実施機関にお問い合わせください。

あのねっとクラブ ~親子で遊ぶクラブ活動~

子どもと保護者を対象に、わくわくするような感覚あそびを中心に親子で楽しく遊ぶ5回連続の講座です。親にとっては子どもの新しい姿を発見し、他の親と交流を深めることができます。子どもにとっては人や場に親しみ思いやり遊ぶ体験の場となります。

- 開催日：9/9(水)、9/16(水)、9/26(土)、9/30(水)、10/7(水)
- 時間：10:30~12:00
- 対象：2歳半~3歳の子どもと親(平成28年10月~平成30年3月生まれ)
- ※5回連続のプログラム全てに参加できる方。(第3回9/26(土)はお父さんも参加)

プログラムの内容や受付方法についてはホームページをご確認ください。

新型コロナウイルス感染症拡大の状況によって変更する場合があります。



愛知県児童総合センター



〒480-1342
愛知県長久手市茨ヶ廻間乙 1533-1
TEL 0561-63-1110
E-mail info@acc-aichi.org
https://www.acc-aichi.org/

開館時間=9:00-17:00
入場料=中学生以下無料、その他 300円

- 7月の休館日=6、13、20日
- 8月の休館日=なし
- 9月の休館日=7、14、23、28日
- 10月の休館日=5、12、19、26日

公共交通 地下鉄東山線「藤が丘」、愛知環状鉄道「八草」から車で… 東名高速・日進JCT経由名古屋瀬戸道路長久手ICから機関で… リニモ「愛・地球博記念公園」駅下車



子どもとおとな、ドキドキ発見!

ACC

Aichi Children's Center

レター

News Letter vol. 37
2020 夏

特集 |
他団体との連携事業
あそび×アートの実験
お父さん応援プログラム
「アナログカフェ」
子育てのおはなし 第37話
募集とお知らせ



愛知県児童総合センター



他団体との連携事業

あそび×アートの実験

文：碧南市藤井達吉現代美術館 大長悠子さん

碧南市藤井達吉現代美術館は、2008年の開館当初から「幅広い世代へ向けた教育普及」を活動理念の一つとして、多様な教育普及活動を展開してきました。例えば小学生を対象とした造形ワークショップや市内小学校への出前講座等です。その一方で、現代美術館として造形の枠に留まらない幅広いアートの表現や鑑賞、美術以前の原初的な創造行為を通して、参加者の創造性に働きかける活動ができないかと思索してきました。このような課題を抱えるなかで、愛知県児童総合センター（以下、ACC）に協力をお願いして共同企画し、2017年度から始めたプログラムが「びあじ：美術館あそび実験室」です。

びあじは3歳以上の子どもと大人を対象としたもので、3ヶ月ごとにあそびのテーマを設定し、ACCが開発したあそびのプログラムを楽しむ「あそび実験室」と、美術作品を見て楽しむ「おさんぼ美術館」の二つのプログラムを体験します。例えば2018年1～3月のびあじで行った「みみをすます」。あそび実験室では、「サウンドハンティング」や「ひかり・カタチ・おと」、「おとをつくる」といったACCでお馴染みのプログラムで遊びました。その後、おさんぼ美術館では「おとをつくる」でつ

くった音が出る道具を展示室に持っていき、作品を見て感じた音を表現する活動を行いました。あそび実験室での活動が、美術館で「作品を見るあそび」へと無理なく繋がり、大人も子どもも五感を使って作品を楽しむ姿が見られました。あそび実験室で思い切り遊び、開放した心身でおさんぼ美術館に繰り出すと、作品を見て自由に話し楽しむことが自然と身につく様子が窺えます。そして、参加者が自発的にあそびとアートに身を投じるなかで自分を新たにしていく姿からは、人間が本来的に持つ創造性や、美術館の使い方・過ごし方はまだまだたくさんあることに気付かされます。

ACCは「あそび」をテーマにした活動によって、美術館はアートによって、新しいものの見方に出会い、様々な発見をするところです。両館が連携して「美術館であそびの実験をする」ことは、きっと大人にとっても子どもにとっても新鮮な発見をもたらすものではないかと思えます。そして、それは美術館の使い方の可能性をひらく実験でもあると信じています。現在、当館は施設増改築工事のため長期休館中でびあじはお休み中ですが、リニューアルオープンの暁には実験の続きができることを楽しみにしています。



愛知県児童総合センターでは、お父さんの子育てを応援するプログラムを実施していますが、「アナログカフェ」もその一つです。このプログラムは、カフェでメニューを選ぶように、たくさん置いてあるカードゲームやボードゲームなどアナログなゲームの中から自分たちで好きなゲームを選んで楽しむことができます。アナログなゲームは、トランプや百人一首のようなカードゲーム、UNOや人生ゲーム、将棋などのボードゲームがよく知られていますが、これらはほんの一部で、本場ドイツやヨーロッパでは毎年たくさんのカードゲームやボードゲームが発売されており、児童総合センターでは、親子で楽しめるゲームを収集しています。それらのゲームは、小学生低学年の子どもが数分で遊べるものから大人が1～2時間かけて遊ぶゲーム、年齢に関係なく勝つことができる偶然性のゲームや記憶したり、推理したり、だましたり、駆け引きをしたりと、様々です。最近では、テレビゲームやスマートフォンゲームなど画面を見て遊ぶゲームが主流となり、対話も少なくなってきました。しかし、アナログなゲームは、人と向き合いお互いの顔を見て話してコミュニケーションを取りながら

楽しむあそびで、年齢、人数、状況に応じて単純化するなどアレンジをすることもできます。また、お父さんと子どもでハンディを付けることで、子どもがお父さんに勝つこともできます。アナログカフェも今年度で10年目を迎え、毎月来てくれる親子も増えてきました。「先月は、お父さんに負けたけど今日は絶対に勝つからね」とスタッフに話かけてくれると、我々スタッフもうれしくなります。アナログなゲームをコミュニケーションツールとして、お父さんと子どもが同じ時間を過ごし、子育てを楽しむきっかけとなればと、毎月第3日曜日にオープンしています。そして、気に入ったゲームが見つかったら、お母さんも一緒に家庭で楽しんでみてはどうでしょうか。



実施日時／毎月第3日曜日 13:30～15:30
対象／お父さんと小学生以上の子ども



お父さん応援プログラム
「アナログカフェ」